

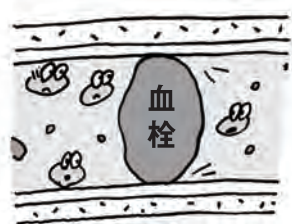
病は知から

しんきん こうそく  
心筋梗塞

高齢化にともない、心筋梗塞の発症数は増加傾向にあります。命を落とさないためには一刻も早い処置が極めて重要。いざというときに迷わないように、正しい知識が必要です。

「心筋梗塞」って、どんな病気？

冠動脈が詰まるのが原因



動脈硬化による血栓で冠動脈が詰まり、心筋への血液がストップするのが原因です。

胸がしめつけられる  
痛みが長く続く



強い胸の痛みや圧迫感が30分以上続くのが特徴。ただし糖尿病の方は胸痛が出ないこともあるので注意。

温度差のある  
トイレとお風呂は要注意



温度差による血圧の急激な変動は、心臓や血管の負担に。トイレやお風呂と居室との温度差を少なくして！

年間死亡者数は  
約4万人



急性心筋梗塞で亡くなる方は年間約4万人(※)。狭心症も含めた虚血性心疾患は日本人の三大死因の一つ。  
※厚生労働省「平成26年人口動態統計の概況」をもとに制作

左肩やあごが  
痛む場合も



胸痛のほか、息苦しさや冷や汗、吐き気などがある場合も。左肩や首、背中、あごや歯が痛むことも。

タバコは  
危険因子



喫煙は動脈硬化を促進し、心筋梗塞のリスクを高めます。中には20～30代で心筋梗塞を起こす人も。

24時間体制で挑む  
一刻を争う「心筋梗塞」の治療

全身に血液を送り出す心臓にひとたび異変が生じれば、突然死につながるかねません。症状や治療に関する話を冠疾患内科の先生に聞きました。



胸の痛みが15分以上続いたら躊躇せず救急車を呼んでください。

地域の病院や救急隊との連携も含め万全の受け入れ態勢を整えています。

冠疾患内科  
石原 正治 主任教授

心臓に血液を供給する冠動脈が詰まってしまい血液が送られなくなると、心筋細胞が壊死します。これが心筋梗塞で、胸の痛みなどが長く続きます。胸や左肩、背中などの強い痛みが15分以上続く場合は、緊急を要すると考えてよいでしょう。

体を動かした時などに胸痛が出て、安静にしていると数分後には治まるという場合は、狭心症の疑いがあります。これは、冠動脈が狭くなっているものの完全に詰まってはいない状態。放っておくと心筋梗塞の危険性が高まりますので、すみやかに受診しましょう。急性心筋梗塞を発症したら、できる限り早く血流を再開することが重要です。理想的には発症後120分以内、病院に着いてから90分以内。治療はほとんどの場合、カテーテルを用いた血管内治療を行います。最近では手首の血管から挿入できるカテーテルもあり、患者さんの負担も軽くなってきました。

兵庫医科大学病院の急性医療総合センターでは、患者さんが運び込まれる初療室とカテーテル室（IVRセンター）が同フロアに隣接。CCU（冠動脈疾患集中治療室）もすぐ上の階にあり、非常に機能的です。夜間・休日も、循環器内科・冠疾患内科の医師2名が病院内に常駐。さらに複数の医師が待機することで、すべての患者さんに対して病院に到着してから90分以内で血流を再開させることができます。もちろん冠動脈バイパス手術など外科的治療が必要な場合は、心臓血管外科が迅速に対応します。

冠動脈が狭まったり詰まったりする原因は、動脈硬化。高血圧や糖尿病、脂質異常症、喫煙などさまざまな危険因子があります。急性期に最善の治療を行うのはもちろんのことですが、再発を防ぐためにも、兵庫医科大学病院のさまざまな診療科と連携しながら、生活習慣の改善などにも努めています。